

## 地域包括ケアシステムと共生社会実現に向けた多職種連携ワークショップ

平成30年2月17日（土）、大正大学にて多職種・多機関の専門職等が集まり、地域包括ケアと共生社会実現をテーマとしたワークショップを開催しました。

東京都豊島区の医師会、歯科医師会、薬剤師会、さらに行政、社会福祉協議会の共催もあり、医療機関、訪問看護ステーション、高齢者総合相談センター、社会福祉協議会、および保健福祉行政の立場からの参加を含め約80名が集いました。

ワークショップの構成は、まずミシガン大学方式によるアイスブレイク、そして前半は、5人の発表者から実際に地域で暮らす住民・利用者や家族・患者への支援、地域での専門職の活動と分野を超えた取り組みと、行政の保健福祉推進体制について報告がありました。続いて後半では、ワールドカフェスタイルで10のテーブルを用意し、それぞれ異なる専門職がテーブルを回り「医療介護連携と住民主体活動をつなぐ」をテーマに率直な意見やひらめきを語り合い、テーブルマスターによる発表、全体へのコメントで締めくくられました。

特徴として、地域包括ケアシステムにかかわる多職種と行政関係者が一堂に参加していたことが挙げられます。導入で即席のグループを作り、「同じゴールを目指す」方策の話し合いを体験しました。事例発表では、地元の地域包括ケアシステムにおけるコミュニティソーシャルワーカー、社会福祉士、医師、訪問看護師、そして福祉行政それぞれの立場から、地域で暮らす高齢者や家族、在宅療養者への相談支援や多職種連携の実践、ICTを用いた情報発信と共有の実践の講演と、H30年度からの豊島区地域保健福祉計画等が説明されました。ワールドカフェでは、発表された事例と取り組みを基に、それぞれのテーブルで医師・歯科医、薬剤師、保健師・看護師、理学・作業療法士、社会福祉士、コミュニティソーシャルワーカー、介護支援専門員といった多職種が自由に意見を出し、共生社会実現に向けての現状と将来への活発な話し合いが行われました。

これだけの多職種が一堂に会し、講義と話し合いを持てた場面は希少であり、各専門職や団体のオブザーバーからは今後の先駆けた取り組みが進展していくこと、それぞれの職種の専門力の向上と連携が基盤となるとのコメントなど、ますます共生社会実現への期待が膨らんだ貴重な時間となりました。

（文責：山本由子・神山裕美）



<全体の様子>

<グループでの話し合い>

